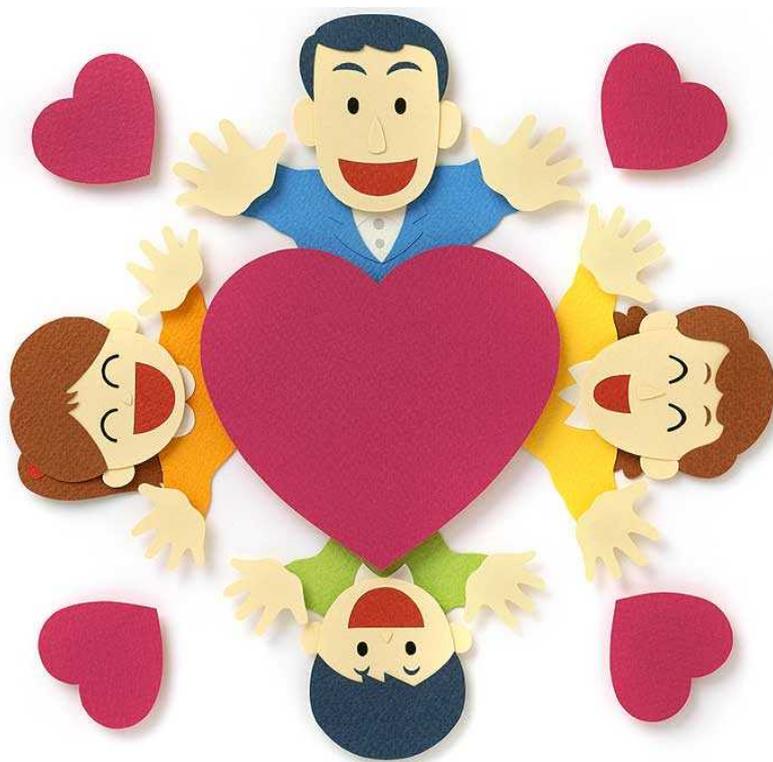


平成27年度

福祉の作文 しあわせの一行詩集



玉城町社会福祉協議会

目次 『福祉の作文』

特選

《小学生の部》
人の役に立つこと
田丸小学校 五年 金谷 幸之介^{こうのすけ}……1

《中学生の部》

祖母の介護で学んだ気持ち
玉城中学校 三年 井上 葉月^{はつき}……2

入選

《小学生の部》

高齢者の生きやすい世界
外城田小学校 六年 口野 颯愛^{ふうあ}……4

たのもししい仕事
田丸小学校 五年 森井 大走^{やまと}……5

思いやる気持ちを大切に
有田小学校 五年 山下 怜夕^{れゆ}……6

ぼくのおばあちゃん
下外城田小学校 四年 松田 式臯^{しこ}……7

《中学生の部》

私が目指す人
玉城中学校 一年 奥野 めぐみ……8

『しあわせの一行詩』優秀作品

……
10

特選

『人の役に立つこと』

田丸小学校 五年 金谷 幸之介

ぼくのお父さんは、福祉の仕事をしています。小さいころは、お父さんがどんな仕事をしているか知りませんでした。でも最近「将来の夢は何ですか」と学校で聞かれることや、本やテレビでも働くことについて書いてあったり見たりすることがあったので、仕事について考えることがあります。

そこでお父さんに「お父さんの仕事って何しているの」と聞いたら「福祉の仕事だよ」と教えてくれました。「福祉の仕事って何」と聞くと「おじいちゃんやおばあちゃんの生活のお手伝いをするんだよ」と言っていました。お父さんは、知らないおじいちゃんやおばあちゃんの生活のお手伝いをするってすごいなと思いました。ぼくは自分のおじいちゃんやおばあちゃんのお手伝いをあまりしません。どうして知らない人の生活のお手伝いをするのかふしぎになり、お父さんに「どうしてその仕事を選んだの」と聞きました。「みんながおじいちゃんおばあちゃんになっても幸せに暮らせるようにしたいからだよ」と教えてくれました。

ぼくは、プロ野球選手になりたいと思います。プロ野球選手もテレビで「ファンのために打ちました」と言っていることがあります。仕事って人の役に立つためにしているのかなと思います。

この間、お父さんの仕事場に連れていってもらいました。オ

ーブン前だったので何もかもがきれいでした。お父さんは、仕事場の中をいっしょに歩いていろいろ教えてくれました。車いすの人や足が上手に上がらない人が進みやすいように段差がないとか、ろう下が学校より広いのは、人と人がぶつかりにくいためだとか教えてくれました。こんなことまで考えてくれる所なら、おじいちゃんもおばあちゃんも生活にこまらないと思いました。どうしてお父さんの仕事場のような段差がなくて広いろう下の建物がぼくの周りには、少ないのだろうかと思いましたが、もっともとおじいちゃんやおばあちゃんが暮らしやすい世の中になれば、みんなこまらないで楽しく生活ができると思います。

福祉ってむずかしかったけど、人のために何かをして役に立つことでこまっている人が生活しやすくなることなのかと思います。

人のために何かをして役に立つことならばくもできると思いました。道にゴミが落ちていたら拾ったり、電車でおじいちゃんやおばあちゃんが乗ってきたら席をゆずることをもつとしていこうと思います。

ぼくは将来何の仕事をするかは、まだ分からないけどお父さんみたいに人の役に立つ仕事をしたいと思います。

特選

『祖母の介護で学んだ気持ち』

玉城中学校 三年 井上 葉月

私が小学三年生になる頃、祖母が体調を崩して、中学一年の秋頃までの間、入退院を繰り返しながら、家族で介護して、祖母を見送りました。

私の祖父は、私が産まれてすぐに、亡くなっていたので身近で見ると初めての介護生活でした。

祖母は、風邪をひき、病院へ行き、そこで胃ガンが見つかり、手術をしました。それまで、日常生活は、何でも一人でして、畑で野菜も、たくさん作っていました。でも、一ヶ月程、入院している間に、認知症になり、身の周りの事も出来なくなつて、家族の見守りが必要になりました。

今は、老人ホームや、福祉施設など、様々な施設は、たくさんあるけど、祖母は、施設への入所を拒み、自宅での介護生活を始める事になりました。二十四時間毎日、母一人がお世話をするのは不可能なので、地域のデイサービスに通わせてもらったり、私が小学校の頃の運動会の日などは、ショートステイを利用して、最後の二年間は、訪問サービスなどを利用して、ヘルパーさんや、看護師や医師にも来てもらつて、毎日を乗り越え、過ごしていました。

あの頃の私には、手伝える事は少なくて、毎日、祖母の部屋へ行って「行って来ます。」と、「ただいま」を言う事や、冬には、ヒーターの灯油を運んだり、夏は、扇風機やクーラーのス

イチチを付けたり消したり、頂き物のお菓子や、果物を届ける事くらいしか、出来ませんでした。

でも、あの頃の私の本当の気持ちは、毎日顔を出すのも、面倒くさかったし、私の事をわからなくなっている時がある祖母に会うのは、嫌な気持ちでした。友達の家では、外食に行ったり、シヨツピングに出掛けたり、旅行に行ったりしていたので、わかってはいるけど、うらやましかったです。子供ながらに絶対に、両親には言っではいけない事だと思って過ごしていました。

父も、祖母の体調が変わっていくにつれ手を貸す事が増えていったし、乗りやすい車を買ったり、ベッドを替えたり、手すりや、車イスなども、何度も何度も、変えて、変化する祖母が少しでも過ごしやすいように、必死に対応していました。

訪問サービスに来てもらっていても、その間に買い物へ行ったり、二十四時間忙しそうに対応して、疲れていても当たり前のように父も仕事に行き、母も家事や介護をして、私の事も手を抜く事もなく一生懸命だったと思います。

あの頃よく両親が「好きで病気になったんじゃない。」「好きでボケてない。」と言っていた事や、「自分だけが大変じゃない。」って話していた事が、あの頃の私より少しわかる気がします。自分だけじゃなく、それぞれの立場で、大勢の人に助けられ、支えられてきた事が今の私の大きな力です。

今でも、地域の人達が祖母の事で声をかけて、「大変だったね。」「よく頑張ったね。」と言ってくれます。あの頃も、今も、

たすけてくれているんだと思います。一人で出来る事は少ないけど、たくさんの人達に教えてもらいました。家族で祖母を在宅介護が出来て良かったと思います。



入選

『高齢者の生きやすい世界』

外城田小学校 六年 口野 颯愛

私は、地域の中で、よく高齢者の方を見かけます。そこではそんな人たちに少しでも楽に生活してほしい、助けたいと思いい福祉体験に行きました。そこで私は認知症について知りました。認知症は日本人の80才に2人に1人が認知症になってしまいうそうです。だから、決して特別な病気ではありません。しかし認知症になると生きにくくなってしまいます。海馬という記憶のつぼがとけていき、物をおぼえたり、おぼえていたりすることができなくなり物わすれをしてしまいます。しかし私が必ず覚えていてほしいことは例え物わすれをするようになっても楽しい、悲しいなどの感情はずっと残っています。だから認知症だからだといって何も感じないということではありません。認知症の方が楽しいやうれしいと思えるようになることが生きやすくなるための第一歩になると思います。そのために失敗をしても責めないであたたかい目で見守るということ、またできないことは手助けをするということが大切なのではないかと思えます。

認知症の方に多い「はいかい」というどこかへ行ってしまうこともあるそうです。私たちはその認知症の人の近くに常にいるわけではありませんが地域で不安そうにしていたりこまっている方がいたら声をかけて安心させてあげることや、はいかいで行方不明になってしまうことを防ぐことができます。

高齢者の方々も周りの人たちが気付かなくていくことが大切なのではないかと私は思います。高齢者の方はできないことが増えてしまいます。その部分は私たちが手助けをしていく所ではないかと思えます。そうすれば高齢者の方でも私たちと同じ生活や楽しみを感じることができるようになるのではないのでしょうか。私は地域で高齢者を見つけてこまっていたら手助けしていかうと思えます。また家族などにも高齢者について伝えていきたいと思えました。

私は福祉体験で高齢者や認知症の方々と交流しました。みなさんとても笑顔でとても楽しそうに感じていました。私は地域の方々の高齢者や認知症の方がしついにいた交流した方々のように笑ってほしいと思いは高齢者の方々も認知症の方々にも周りの人たちの手助けが必要だと思います。私は、高齢者や認知症の方々がこまっていたり不安そうにしていたら助けていきたいと思えます。また福祉体験などにも参加してもっとたくさんの高齢者や認知症の方々と交流していきたいと思えました。その中にもっと高齢者や認知症の方が楽に生活したり私たちができることをたくさん見つけていきたいと思えます。認知症は80才以上の2人に1人となる病気です。だから決して特別なわけではないということをしつかり理解していきたいと思えました。また、たくさんの人たちの手助けが必要だと分かりました。だからこそ私たち一人ひとりが高齢者や認知症の方のことをしつかり理解するということ、手助けしていくということが大切と分かりました。

入選

『たのもししい仕事』

田丸小学校 五年 森井 大走

お母さんは、かいごの仕事をしています。「かいご」という言葉は、テレビでもふだんよく聞くし、だいたいどんなのかイメージはあるけれど、自分が直接見ることも体験することも今までありませんでした。

テレビを見てた時、ぼくは、大変だなあと思うよりも、ごはんもぼろぼろこぼしていたり、よだれをだしていたり、トイレでおむつを交かんしているのをみて、うわあ、きたないなあと思ってしまうました。

たぶん、自分のおじいちゃんとかでも同じだと思います。

かいごの仕事は、知らない人の体をふいたり、トイレを手伝ったりしてるんだと思うと、ぼくにはできないなあと思ひました。ぼくはお母さんに

「なあ、かいごの仕事さ、気持ち悪くないん？」

と聞きました。お母さんは、

「おじいちゃんもおばあちゃんも好きでこんなになつたんじゃないんやよ、年がたてばだんだん自分で出来やんことが多くなってくるんやで、元気な自分らがそれを手伝うのは当たり前やんか。その仕事があつて、お金をもらつとるんやで、そのお金であんたはごはんが食べれたり、おもちゃが買えるんやろ？つてことはかいごのおじいちゃんやおばあちゃんからお金をもらつとるって思わないかんのとちがう？」と言われました。

なるほどな。と思いました。そういうふうに思えたらきたな
いとも思わずにかいごが出来るんだなあ。

元気な人が病氣の人を助ける。かいごの意味がわからなくて
も、これはわかります。きたないからとかしんどそうやからと
かで、だれもやらなくなったら一人で動けやんおじいちゃんや
おばあちゃんのめんどうをみる人がいなくなります。

「昔の人を大切にしやなあかん」

とお母さんに言われたことがあります。「この人たちがおるか
ら今の日本があるんやから。戦争のない国にしてくれたのは昔
の人たちのおかげなんやで」と言っていました。

今、平和にくらせているのが、おじいちゃんやおばあちゃん
のおかげなんだと思うと少しは、きたないとかの気持ちがなく
なりました。

でも、まだ今のぼくには、かいごのような大変な仕事は出来
ないと思います。人の命をまかせられてもせきにんがもてなく
てにげてしまうとします。

でも、仕事じゃなくても、今からでも人の役に立つことはで
きると思います。重そうなものを持つてあげたりドアをあけ
てあげたり、外で困っている人の手伝いくらいならばくにも
出来ます。

だから、今のぼくに出来る事をしよう。

「してあげた」じゃなく、「役に立ちたい」という気持ちになっ
て。

入選

『思いやる気持ちを大切に』

有田小学校 五年 山下 怜夕

私は、三年生の時、おもいやり駐車場について習いました。おもいやり駐車場とは、スーパーや病院などの駐車場にある、特別な駐車スペースの事を言います。しょうがい者やお年よりやにんぶさんなど、歩くのが困るような人が車をとめるための場所です。休みの日に、家族と大きなショッピングセンターへ行くと、車がいっぱい、なかなか空いている場所が見つからない時があります。やっとなめられたとしても、お店までは遠くはなれているので、体の不自由な人だったら、本当に大変だと思います。お店のすぐ前におもいやり駐車場が空いているのを見ると、いつも安心します。時々、そこにとめてはいけない人がとめているのを見て、とても残念な気持ちになります。私のお母さんは、どんなに急いでいても、おもいやり駐車場にはとめません。もしとめようとしても、私が注意します。残念な気持ちになるのがいやだからです。

私のお父さんは、よく都会へ出ちょうに行きます。駅や街を歩いていると、体の不自由な人をたくさん見かけると聞ききました。車いすで駅にいると駅員さんが声をかけて、車いすせん用の車両まで連れていってくれるそうです。そして、駅員さんは、その人がおられる駅に連れらくをして、着いた駅の駅員さんが、おられるのを手伝ってくれるそうです。私は、そんな事を初めて知りました。とても感心しました。それなら車いすの人も、安心

して電車に乗れます。

また、信号機にも工夫がされているようです。目の不自由な人のために、わたれる間は音楽が流れていたたり、言葉で案内したりするそうです。でも、私が住んでいる辺りには、ほとんど見た事がありません。普通の信号機では、目の不自由な人は一人でわたれません。体が不自由な人は、どこにでもいるのに、すべての人達を助けるための工夫は、まだまだ足りないと思います。

二〇二〇年には、東京で、オリンピックとパラリンピックが開かれます。パラリンピックについては、この前初めてお母さんに教えてもらいました。世界中から、しょうがいを持った人達が日本へ来てくれます。日本はその人達を受け入れる責任があります。不安な気持ちで日本へ来てくれるしょうがい者の人達が、日本は住みやすく安心して過ごす事が出来る国だと思つてほしいです。でも、設備やかんきょうが、どれだけ整つても、助け合う気持ちがないと意味がありません。みんなが、人をおもいやる気持ちを忘れず、マナーを守つて、体の不自由な人が住みやすい国、世界一を目指して努力しなければいけないと思ひました。これからも、私に出来る事はないか考えて、助け合う気持ちを大切にしていきたいです。

入選

『ぼくのおばあちゃん』

下外城田小学校 四年 松田 式臈

ぼくには、98才のおばあちゃんがいます。えみばあちゃんのお母さんです。ぼくのおばあちゃんの家で一階の日あたりのよい部屋にいつもいます。ぼくが小さいころのことです。いけないうことをしてお母さんやひろみばあちゃんに、おこられて泣いた時、おばあちゃんがなぐさめてくれました。部屋でドミノたおしても遊んでくれました。とてもやさしいおばあちゃんだと思っています。

おばあちゃんがデイサービスに行くようになってからは、ぼくは学校から帰ってくると庭でおばあちゃんの帰りをまつています。

昼間は、保健福祉会館で、みんなで歌を歌ったり、おしゃべりしたりして、すごしています。そのころ家では、安心して、家族が仕事や、生活が、できています。ある日とつぜん、あんなに友達とお話をしていたおばあちゃんがあまりしゃべらなくなったりぼく達の事を忘れたりするようになってしまいました。ぼくは、悲しかったです。でもなぜか妹のむくちゃんのこと、いつも覚えていてくれました。むくちゃんの事だけでも覚えていてくれてうれしかったです。そしてぬいぐるみにいつもむくちゃんむくちゃんと書いています。

しばらくしてショートステイにいつて少しの間だけおとまりしてくるサービスを、使うようになりました。えみばあちゃん

は、

「夜安心して寝れるで助かるわ。」

と言っていました。だんだんおばあちゃんが年をとってきて、歩きにくくなってきて、家での生活がつらそうでした。

そこで、特別ようご老人ホームに入りました。宮古にいるのどきどき会いに行きます。

ぼくが行くともともうれしそうなのでぼくもとてもうれしいです。おばあちゃんに人形をもつていった時は、おばあちゃんはどうけると、人形にうれしそうに笑顔で話しかけていました。それを見たぼく達も笑顔になりました。

おせわをしてくれる福祉の人達は、おばあちゃんにやさしくしてくれているのでよかったです。

おばあちゃんが、大好きだからぼくのことを全部忘れてしまったら、ぼくはとても悲しいです。でもおばあちゃんが、ぼくのことを少しでも覚えていてくれたら、ぼくはおばあちゃんともつと話をしたいからおばあちゃんにもつと長生きしてほしいです。そして、家族みんなでおばあちゃんを大切にしたいです。

入選

『私が目指す人』

玉城中学校 一年 奥野 めぐみ

「なんでこんなにゆっくりなんかな。もっと速く歩いてほしいな。」「その話きつきもしたし。聞いてないのかな。」私は、おばあちゃんに対してこんな風に思っていたことがあります。

私のおばあちゃんはとても優しい人です。私が小さいころは、いろんな場所にも連れていってくれたり、習い事の送り迎えをしたりしてくれました。いつも私がおばあちゃん家に行くとき、とてもうれしそうに笑って、私の話を聞いてくれました。私はそんなおばあちゃんが大好きでした。でも、最近おばあちゃんは、体が不自由になってきて、歩いたり、物をとったりする動作の一つ一つがとてもゆっくりになりました。年をとってくれば、あたり前の事だと思います。けれど私は、そんなおばあちゃんに対して、イライラしていました。おばあちゃんに会うと、ついむすっとした顔になったり、ついツンツンした態度をとったりしてしまうようになりました。きつとおばあちゃんは、そんな私に気付いていたと思います。なのに、いやそうな顔や、傷ついた顔をせず、いつもニコニコ笑っていました。

あるときお母さんに、「最近おばあちゃんに対してツンツンした態度とりすぎじゃないの?」と注意されました。私は少し考えてみました。質問しただけでむすつとされたり、そっぽを向かれたりしたらどう思うだろう。私だったら良い気持ちはしないな、と思いました。私は今まで、おばあちゃんに対して、い

やな事をされたような態度をとってしまったな、と気付きました。おばあちゃんは今まで私がいやな気分になるような事を一回でもしただろうかとふり返ってみました。けれど思い出すのは、一緒にテレビを見て笑っていたり、お母さんにおこられて不安で悲しい時になぐさめてくれていたり、いつも笑顔で私の名前を呼びかけてくれたりする姿で、いやな事なんて一度もありませんでした。いやな気分になっていたのは、おばあちゃんの方だと気付きました。

私は、おばあちゃんがいやそうな表情をしないのをいい事に、ずっとおばあちゃんにいやな事をしてしまっていました。全部自分のわがままさと、自分への甘さで、私は自分のことしか考えていなくて、相手の気持ちは考えていませんでした。きつと、おばあちゃんだけでなく、他の人にもこんないやな態度をとったことがあったと思います。そのたびに、相手の人はいやな思いをしていたんだ、と思いました。

だから、これからは、おばあちゃんのように、いつもニコニコ笑っているような、優しい人になりたいです。相手の気持ちを考えて言葉の一つ一つ、行動の一つ一つに気を付けたいです。発言するときは、言う前に少し考えて、これを言ったら相手はどう思うだろうか、としっかり考えてから言いたいです。いきなり今書いたことを行動に移すのは無理だと思います。けれど少しずつ、一つ一つできるようになっていきます。きっとこれから先、今までのように、目の前にいる相手を傷つけてしまうことは、気を付けていてもあると思います。その時は、すぐに気

付いて、すぐに「ごめんなさい」と謝れるようになりたいです。
私のおばあちゃんは、とても優しい人です。人のために考
えて動いていて、いつも笑っています。私もいつかは、おばあ
ちゃんのような、優しく、いつも笑っていられるような人にな
りたいです。





「しあわせの一行詩」優秀作品

【小学生の部】

特選

あったかうい。お母さんの手と重なった一瞬。ふわっと心もあったかくなつた。お母さんの手の間にぼくの手。

〈作品への想い〉

寒い朝、お母さんから荷物を受け取った時、手に一瞬ふれただけなのに、とつてもあったかくて、思わず気持ちよくて、手をあつためてほしくなつた。するとお母さんから手をにぎってくれた。

外城田小学校四年

南出

藍志 あいし

元気ですたまき賞受賞

朝起きると、家族が「おはよう」と言ってくれる。一日が楽しくはじまりそうだと思つた。

〈作品への想い〉

毎日、私が「おはよう」と言う。家族が「おはよう」と言う。温かい言葉を感じたから。

下外城田小学校六年

八木

琴香 ことか

夏休み、福祉会館へ行き、高齢者の方とふれあった。笑っているのを見ると、少し心がくすぐったかった。

〈作品への想い〉

将来の夢は、介護士で、夏休みに、お年寄りの方とふれあいたくて、行くと、あるおじいさんと出会い、一緒に笑いあった。すると、心がくすぐつたくなって、もつとお年寄りの方としゃべりたくなかった。

田丸小学校六年

戸上

夕菜^{ゆな}

《入選》

お留守番。さみしいけれどがまんがまん。早く帰ってきてほしいな。ぼくのあたたかい家族。おかえりなさい。

〈作品への想い〉

ぼくは、お留守番をしている時のことを詩にしました。一人でお留守番をして、初めて家族がいる時の安心感、温かさに気づきました。

外城田小学校四年

南出

哲志^{てっし}

学校で、あんまりしゃべってなかった子と久しぶりにしゃべってみた。友達の大切さを感じた

〈作品への想い〉

あんまり仲のいい子がいなくて、その子としゃべってみたら、すごくやさしい子だった。

田丸小学校四年

見並

麻理菜まりな

妹と同じベッドで寝た。正直、せまくて寝にくい。でも「明日も一緒に寝ていい？」の言葉にうれしく思う。

〈作品への想い〉

せまいし、きゆうくつだし、寝にくいのに一緒に寝るのをうれしく思っている私。「明日も一緒に寝ていい？」と聞かれると「いいよ」と答えてしまいます。これから一緒に寝ようね。

下外城田小学校六年

山口

心里こころ



【一般の部】

特選

自然豊かなこの町に 住めば絆で結ばれて グラウンド
ゴルフの球打てば 老いを忘れるホールイン

〈作品への想い〉

町の「グラウンドゴルフの会」に入会し、高齢であっても、練習し、競い合い、みんなが仲間との会話あり、笑顔ありで、日々を過ごせることに、幸せを感じます。

下村 謙之助

元気ですたまき委員会賞

玉城で生活し始めて“感謝♥感激”の毎日!“玉城”の愛
うれしい…しあわせ♥

〈作品への想い〉

私が玉城に引っ越してきて生活してから病気になつて、そこで、こちらの「福祉充実さ」や環境のすばらしさに気付いて感じました。玉城との出会いしあわせです。

田中 友香子

おじさんが初めて私叱ってくれた　もう一人の大切な大切な父へ　いつもありがとう

〈作品への想い〉

幼くして、病気で両親が亡くなりましたが、父の弟である私にとっておじさんは、ずっと両親の代わりをしてきてきてくれました。本当に嬉しく幸せ。その想いを感じたとき、それは亡き父のおもかげをおじさんに感じたときでした。

潮田　美奈子

平成二十七年 度

玉城町社会福祉大会

「福祉の作文」審査委員

(敬称略)

玉城町長

玉城町社会福祉協議会

会長 辻村 修一

玉城町教育委員会

教育長 山口 典郎

玉城町校長会 (玉城中学校)

代表 阪江 謙二

玉城町生活福祉課

課長 中村 元紀

玉城町社会福祉協議会

事務局長 西野 公啓

「しあわせの一行詩」審査委員

元気ですたまき委員会

健康しあわせ委員会

社会福祉法人
玉城町社会福祉協議会

〒519-0433

三重県度会郡玉城町勝田 4876-1

TEL:0596-58-6915

FAX:0596-58-6916

発行：平成28年2月11日